

北大阪商工会議所 2019年度 環境シンポジウム

～地球に、環境に優しい企業を目指して～



左よりバイオマスパワーテクノロジー(株) 北角社長、関西環境リサーチ(株) 櫻井社長、日刊工業新聞社大阪支社 赤穂啓子編集局長、北大阪商工会議所 北本 明会頭、日本ペイント・オートモーティブコーティングス(株) 野々垣様、岡崎様、事業所長 迎様、宮本様、関西環境リサーチ(株) 櫻井会長

2019年6月19日(水)、当所中ホールに於いて環境シンポジウム(当所主催、日刊工業新聞社協賛)が開催されました。

環境問題は、産業活動に起因する自然環境の汚染、特に廃プラスチックによる海洋汚染など、地域の環境問題から次第に地球規模へと展開し、貧困、紛争などと並んで主要な国際政治問題、社会問題の一つと位置付けられております。

環境シンポジウムは、「地球に、環境に優しい企業」を目指し、経営者と従業員の方々が一丸となり取り組むべく、環境月間の毎年6月に開催するものです。

第1部の環境改善表彰式では、環境保全・向上など環境対策に効果的な改善策を実施され、功績顕著な事業所に対しての環境改善表彰式が行われました。

5月20日(月)に開催された環境改善表彰審査委員会

による厳正なる審査の結果、バイオマスパワーテクノロジー株式会社に環境改善優秀賞、同じく日本ペイント・オートモーティブコーティングス株式会社に環境改善優秀賞、関西環境リサーチ株式会社に環境改善努力賞が贈られました。(右頁

に表彰理由を記載)

第2部では、公共・民間両面から「経済」「環境」「社会」の3つの観点から、公益財団法人 地球環境戦略研究機関 都市タスクフォース プログラムディレクター・上席研究員 藤野純一氏より、「SDGsとまちづくり -SDGsの国内外の動向-」をテーマに、パナソニック株式会社 品質・環境本部 環境経営推進部 環境企画課 ユニットリーダー 下野隆二氏より、「パナソニックの環境取り組み」について講演が行われ、会場の参加者は熱心に耳を傾けておられました。



第2部 講演の様子 (写真 左：藤野氏 右上：下野氏)

環境改善 優秀賞

バイオマスパワーテクノロジー株式会社
枚方市三栗一 二八 一七五



当該事業所は、枚方市に本社がある株式会社インテグリティエナジーが事業責任会社となり、事業に協賛する12社からの出資を得て平成27年末に設立した会社です。その事業は、松阪市において、次のような基本理念を持って木質バイオマス発電所の運営を行っています。

つまり、日本の再生可能エネルギーによる発電は、FIT制度によって拡大してきているが、その本質は「大規模集中型電力システム」から地域の未利用資源を有効活用した「小規模分散型電力システム」へ移行を実現することである。また、そこで用いるバイオマスは、従来のバイオマス発電所では利用できなかった樹皮や枝葉、根も利用可能とし、樹木を完全に利用可能なことにより森林整備や雇用促進などを図るとし、単に発電事業にとどまらず地域全体の活性化を目指すというものです。具体的には、隣に立地するバイオマス発電所が間伐材などから燃料を製造する際に、自社では利用できずに低価格で売却していた生産量の1割程度の樹皮などを引き取っています。また一方で、松阪市にある木質チップ生産工場では、一般木材や建築廃材なども受け入れていますが、これをチップにしたものの需要先が少ないため、これも受け入れてチップ生産工場の経営改善にも寄与しています。

その他、当該事業所では、木質バイオマス発電にかかわる若手人材育成に力を入れているほか、人工知能を活用した運転支援システムの構築にも取り組んでいます。また、発電所で発生する灰の有効利用や竹を燃料とするバイオマス発電所の実現についての研究も行っています。

樹皮を用いる発電所は日本で初めて実現したものであり、地域活性化や林業振興までを視点に入れる事業理念は、環境改善優秀賞にふさわしいものと認められます。北大阪商工会議所管内での発電も検討課題としており、今後の事業発展の中で、これを実現することを期待いたします。

環境改善 優秀賞

日本ペイント・オートモーティブコーティングス株式会社
枚方市招提大谷 三丁目一四 一



当該事業所は、日本ペイントのグループ会社で、自動車用塗料の開発・製造・販売を行う会社として、枚方市に立地しています。グループ会社全体でのCSRの取り組みの中で、重要課題の一つとして製品・サービスによる環境影響評価を掲げていますが、当該事業所では自動車向け環境配慮型の塗料開発を行っています。

自動車の塗料は、太陽光線にさらされるほか、落下物による汚染や傷がつくなど、厳しい使用環境の中で、長期にわたって色・艶を保つ、錆を防ぐなどの耐久性が求められています。また、車のデザインに対応して新しい色の塗料の開発も求められています。このような要求のほかに、環境配慮も求められるようになってきているのです。

当該事業所では、室内の温度上昇を防ぐ高赤外線反射塗料を開発しましたが、次の二つの開発がなされています。

1. 車の塗装には様々な機能を持つ塗料を何層か重ねて塗っていますが、その塗料の一つに、赤外線を最大限反射する塗料を採用しました。さらに、現行の塗料は色の明るさを調整するのにカーボンブラックを用いるのですが、これが赤外線を吸収して塗料の温度が上昇し、ひいては室内空気の温度上昇を引き起こすため、カーボンブラックを使わずに明るさを調整することに成功しました。これらを合わせて用いることにより、直射日光の下でも塗料の温度を低く抑えることができました。このように室内温度の上昇を抑えることは、エアコンの負荷低減となり、車の燃費を低減するに繋がります。

この塗料は、世界でも初めて開発されたもので、先進的に環境改善のための研究開発を進めていく姿勢や技術力は、環境改善優秀賞にあたるものと評価されます。また、化学物質の開発から製造・廃棄までのすべての過程に責任を持つフレキシブル・ケア活動にも取り組んでいます。今後もCSRの取組を進め、環境改善につながるような製品を開発していくことを期待いたします。

環境改善 努力賞

関西環境リサーチ株式会社
寝屋川市田井町二 一三〇



当該事業所は、平成2年1月にエムエス診断技術株式会社として創業し、平成9年に現社名に改称していますが、その間、水質・大気・悪臭・騒音・振動・土壌汚染など環境汚染にかかわる調査・測定・分析の業務を実施してきています。また、作業環境測定、アスベスト調査や室内空気測定なども実施しています。社員数は10名程度と小規模な事業所ですが、環境計量士や作業環境測定士を複数名配置するとともに各種分析装置も設置して、業務遂行に万全の体制を築いています。創業以来、自治体や企業からの測定依頼に応じてこれら、昨年11月には一般社団法人 大阪府計量協会から計量事業の発展に寄与したとして、表彰を受けています。

このように長年にわたって業務を実施してきましたが、最近では企業などの作業環境測定を実施した後、結果を評価して環境改善に役立つような提案を行うといった、単なる測定結果を報告する業務から、依頼主にとってメリットとなるような提案型の業務に仕事の幅を広げています。また、個人の方の騒音や振動に対する不安や苦情にも対応するというきめ細やかな作業もしています。これらは、環境に対して不安を持っている依頼主や相談者に対して、安心を与えたいという環境分析会社としてはより進んだ取り組みであると評価できます。

近年は自治体等が実施する環境測定は業務量が減少傾向にあるのですが、当該事業所は、小規模であるという点を強みとし、すぐに動ける機動性を持った体制を構築して企業や個人からの依頼や相談に対応するという点で、業務量を増やしている点も注目されます。

社会貢献活動として、当該事業所の会長は寝屋川市ごみ減量化・リサイクル推進会議の委員として活動しています。このように存在感ある事業所として活動を続けてこられたことは、環境改善努力賞にふさわしいものと評価できます。今後も、さらなる業務の継続・発展を期待いたします。